

項目	内容
名称	鶏肉抽出物 [英]Chicken extract [学名]-
概要	<p>鶏肉抽出物は、ブイヨンなどの調味料の原材料として用いられるだけでなく、タウリンを多く含むことから滋養強壮に良いとされてきた。近年、カルノシンや、アンセリン、バレニン、ホモカルノシンなどのイミダゾールジペプチド (ヒスチジン含有ジペプチド) が注目され、健康食品に利用される素材である。</p>
法規・制度	<p>■ 食薬区分 ニワトリ 可食肉部からエタノール抽出して濃縮したもの・胃の内壁 (ケイナイキン) : 「医薬品的効能効果を標ぼうしない限り医薬品と判断しない成分本質 (原材料)」に該当する。</p>
成分の特性・品質	
主な成分・性質	<p>・マウスではイミダゾールジペプチドの経口投与により、血液中のカルノシンやアンセリンの濃度が増加する (2002188139) (2003078520)。一方、ヒトでは、イミダゾールジペプチドを摂取しても血液中にカルノシンやアンセリンとしては検出されず、それらの構成成分のみが検出されている (2004154226) (2008181003) (2008181002)。</p>
分析法	-
有効性	

ヒトでの評価	循環器・呼吸器	調べた文献の中に見当たらない。
	消化系・肝臓	調べた文献の中に見当たらない。
	糖尿病・内分泌	調べた文献の中に見当たらない。
	生殖・泌尿器	調べた文献の中に見当たらない。
	脳・神経・感覚器	<p><b>RCT：国内</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康な成人31名（試験群14名、平均61.4歳、日本）を対象とした二重盲検無作為化プラセボ対照試験において、鶏肉抽出物（イミダゾールジペプチド（カルノシン：アンセリン＝1：3）500 mg含有）x 2回/日を3ヶ月間摂取させたところ、脳MRI画像による認知機能に関連する部位の活性に変化が認められた。一方、認知機能指標（ADAS-cog、WMS-LM（即時想起、遅延想起）、BDI）スコアに影響は認められなかった（<a href="#">PMID:26640437</a>）。</li> <li>・健康な高齢者39名（試験群19名、平均67.8±5.6歳、日本）を対象とした二重盲検無作為化プラセボ対照試験において、鶏肉抽出物（イミダゾールジペプチド（カルノシン：アンセリン＝1：3）500 mg含有）x 2回/日を3ヶ月間摂取させたところ、認知機能テスト4種類6項目中1項目（WMS-LM2（遅延想起）スコア）のみで低下抑制、脳皮質領域の灌流量の増加が認められた（<a href="#">PMID:26682691</a>）。</li> <li>・健康な高齢者84名（試験群42名、平均69.4±5.9歳、日本）を対象とした二重盲検無作為化プラセボ対照試験において、鶏肉抽出物（イミダゾールジペプチド（カルノシン：アンセリン＝1：3）500 mg含有）x 2回/日を6ヶ月間摂取させたところ、WMS-LM2（遅延想起）スコアの低下抑制が認められた（<a href="#">PMID:26682691</a>）。</li> <li>・軽度の認知機能障害がある中高年50名（試験群25名、平均72.9±8.8歳、日本）を対象とした二重盲検無作為化プラセボ対照試験において、鶏胸肉抽出物（イミダゾールジペプチド（カルノシン：アンセリン＝1：3）500 mg含有）x 2回/日を12週間摂取させたところ、認知機能指標（MMSE、CDR、WMS（即時想起、遅延想起）、ADAS）、気分評価指標（GDS）スコアに影響は認められなかった（<a href="#">PMID:31319510</a>）。</li> </ul> <p><b>RCT：海外</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康な高齢者51名（試験群26名、平均81±7.0歳、ポーランド）を対象とした二重盲検無作為化プラセボ対照試験において、鶏胸肉抽出物（イミダゾールジペプチド（カルノシン：アンセリン＝1：2）1 g含有）/日を13週間摂取させたところ、運動機能指標8項目中1項目（柔軟性）の改善、認知機能指標3種類11項目中1項目（情報）の改善が認められた。一方、BMIに影響は認められなかった（<a href="#">PMID:24880197</a>）。</li> </ul>
	免疫・がん・炎症	調べた文献の中に見当たらない。
	骨・筋肉	調べた文献の中に見当たらない。
	発育・成長	調べた文献の中に見当たらない。
	肥満	調べた文献の中に見当たらない。
	その他	<p><b>RCT：国内</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・疲労を自覚している健康な成人207名（日本）を対象とした二重盲検無作為化プラセボ対照試験において、鶏肉抽出物（イミダゾールジペプチド200 mg含有）/日（70名、平均41.7±8.2歳）または鶏胸肉抽出物（イミダゾールジペプチド400 mg含有）/日（70名、平均41.0±10.0歳）を8週間摂取させたところ、400 mg/日摂取群においてのみ、疲労度（VAS）の軽減が認められた。一方、疲労度評価指標</li> </ul>

(Chalder fatigue scale)、身体的パフォーマンス (10秒間ハイパワーテスト、PWCテスト) に影響は認められなかった (2009232959)。

参考文献

[\(PMID:26640437\) Front Aging Neurosci. 2015 Nov 27;7:219.](#)

[\(PMID:26682691\) J Alzheimers Dis. 2015;50\(1\):149-59.](#)

(2009232959) 薬理と治療. 2009;37(3): 255-63.

[\(PMID:24408989\) J Appl Physiol \(1985\). 2014 Mar 1;116\(5\):553-9.](#)

[\(PMID:24880197\) Arch Gerontol Geriatr. 2014 Sep-Oct;59\(2\):485-90.](#)

(2004154226) 体育学研究 2004 ; 49 : 159-69.

(2008181003) 薬理と治療 2008 ; 36(3) : 225-35.

(2008181002) 薬理と治療 2008 ; 36(3) : 213-24.

(2002188139) 日本栄養・食糧学会誌 2002 ; 55(2) : 73-8.

(2003078520) 日本栄養・食糧学会誌 2002 ; 55(4) : 209-14.

[\(PMID:31319510\) Nutrients. 2019 Jul 17;11\(7\):1626.](#)

(30) 「医薬品の範囲に関する基準」(別添1、別添2、一部改正について)